

株式設立五十周年記念誌

50<sup>th</sup>  
Anniversary  
since 1964



株式  
会社

三幸製作所

株式設立五十周年記念  
株式会社 三幸製作所







株式会社三幸製作所は

2013年12月で創業84年 株式会社設立50周年を迎えました。



## CONTENTS

目次

社是	3
創業者・初代社長  ご挨拶	5
第二代社長  挨拶	6
第三代社長  挨拶	7
歴史年表	8

## History of MIYUKI

第1章《創業》 1930(昭和5年)～1963(昭和38年)	10
インタビューコラム ①あの時私は、「菅沼政治」	11
第2章《発展》 1964(昭和39年)～2000(平成12年)	18
インタビューコラム ②あの時私は、「荒木 功」	19
第3章《革新》 2001(平成13年)～2013(平成25年)	28
インタビューコラム ③あの時私は、「鈴木啓介」	29
海外拠点 INDONESIA	34
インタビューコラム ④あの時私は、「坪井 護」	34
第4章《未来へ》 2014(平成26年)～	40
インタビューコラム ⑤これからの三幸、「池谷守泰」	41
西丘新工場建設計画	42
西丘新工場完成予想図	44
会社概要	
MIYUKIを支える人・物・技術	46
従業員・各課のスローガン	48
工場・機械設備と製品	50
研修、改善活動	52
会社概要	53
ISO取得・防災訓練・福利厚生	54
編集後記	56



# 社是

「客先から喜ばれる仕事を」

全責任を持って遂行しよう。

「理想を高く常に夢を持ち」

活力に満ちた会社になろう。

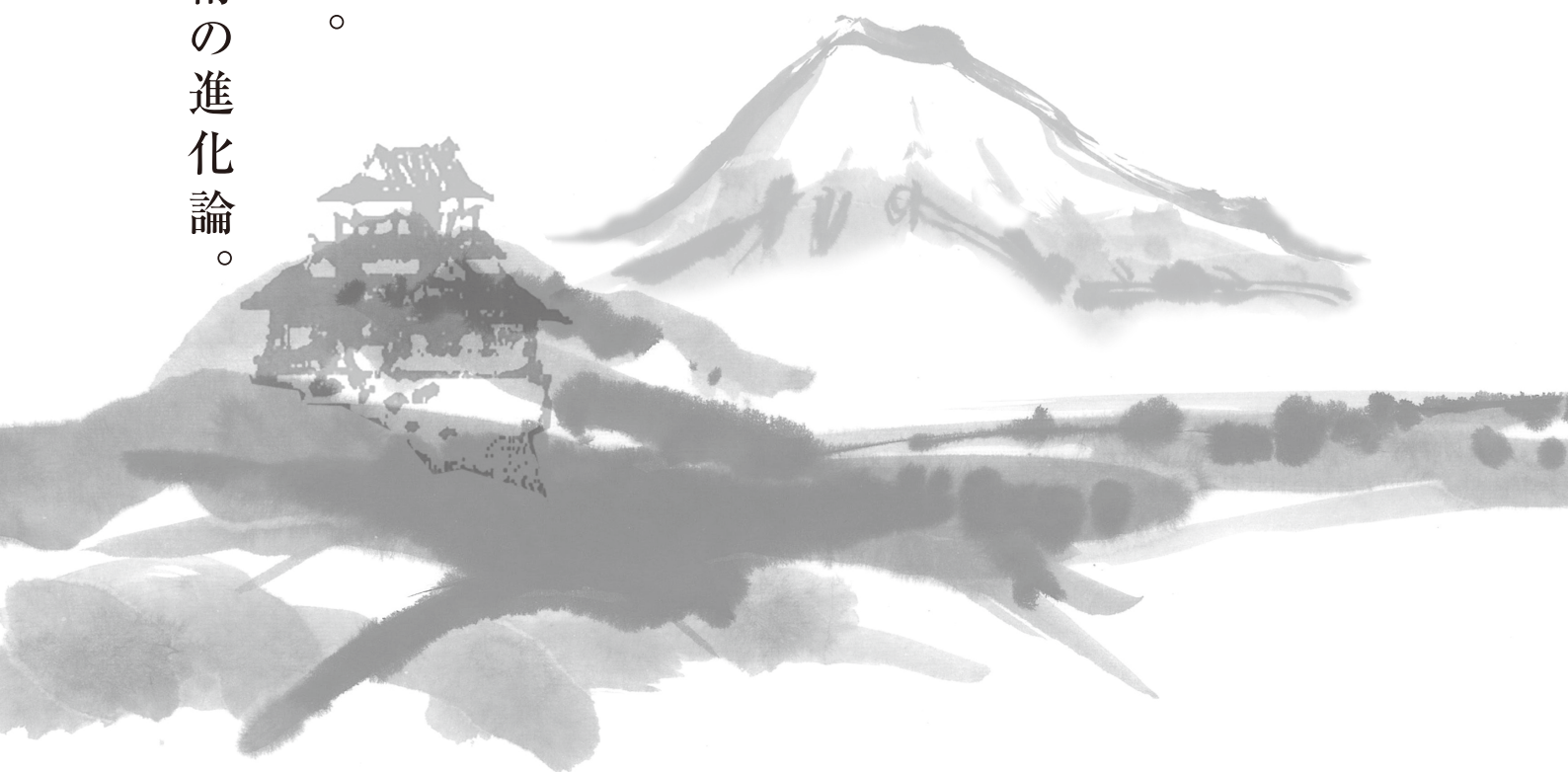
「如何なる社会にも対応できる」

自己の力を培い笑顔の絶えない

会社を建設しよう。



創意と工夫と情熱で挑み続けて50年。  
世界のスズキ(株)と共に育つ、人と技術の進化論。



50 years of originality, ingenuity, and passion.

Together with Suzuki, encouraging the evolution of people and technology.



## 中島ブリキ店を礎に、株式会社設立から50年。 自動車部品製造ひと筋に技術研鑽の道のりでした。

Building on the foundations set by the Nakajima Buriki Shop,  
Miyuki Seisakusho celebrates 50 years since its founding; a true journey of diligent  
devotion to the craft of manufacturing automobile parts.

創業者・初代社長  
中島章平

Founder & First President  
SHOHEI NAKAJIMA  
1923/9/15 - 2017/9/4 (93歳没)



三幸製作所の歴史は古く、1930年(昭和5年)に父と私が個人創業した中島ブリキ店が出発となりました。戦後も金物加工業として高塚駅前店で店を再開し、すぐに鈴木自動車工業(現スズキ株)の部品製造で協力関係を築き、1955年(昭和30年)に合資会社三幸製作所を設立しました。以来自動車部品の製造分野ひと筋に技術力を高め、1964年(昭和39年)には株式会社に組織替えをしました。そして株三幸製作所となって、今年50周年を迎えることができました。日本が高度経済成長の時代をひた走り、モータリゼーションの急速な広がりの中で、自動車の足回り部品をメインとする部品製造メーカーとして客先より高い評価を頂いてきました。関係各方面、各位に心から50周年の感謝を申し上げると共に、さらにいっそう皆様のお役に立つ製品、満足をいただけるサービスを提供できるよう前進を続けてまいります。今後ともご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



お陰様で(株)三幸製作所は設立50周年を迎えました。  
感謝をこめて歴史と未来の物語をお届けします。

Thank you very much for supporting Miyuki Seisakusho throughout its 50-year history.  
With a deep feeling of appreciation,  
I would like to offer this short look back into Miyuki's past and a quick glance at what lies ahead.

第二代社長  
中島 廣幸

The 2nd generation President  
HIROYUKI NAKAJIMA



2013年(平成25年)12月、(株)三幸製作所は設立50周年を迎えることができました。その間、多くの方々よりご支援を賜りましたことに心より御礼申し上げます。また、小さくとも、戦後日本の成長と発展を牽引してきた自動車産業の一翼を担うことができたことに誇りを感じるとともに、私たちの仕事と会社の成長を支え続けてくださったスズキ(株)様と関係者の皆様には、改めて感謝申し上げる次第です。さて50年の社歴を重ねながら、ひたすらに品質、コスト、納期の追及と技術向上に追われ、会社の歩みなど資料の整理もできていませんでした。この記念誌の編集を通して50年をじっくりふり振り返り、次代への道筋を検証するよい機会となりました。常に私たちが晒される経営環境の変化にも、中小企業ならではの小回りのよさ、風通しの良さを生かし、グローバル化にも対応し、さらに会社発展にまい進していく決意です。今後とも皆様のご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。



顧客・社員・会社の3者が共に栄え・幸福であるために。  
次の50年への成長を目指して心新たに出発します。

For the prosperity and good fortune for our clients, our employees, and our company,  
Miyuki Seisakusho aims for a further 50 years of success and innovative thinking.

第三代社長  
中島 雄一

The 3rd generation President  
YUICHI NAKAJIMA



(株)三幸製作所設立50周年に当り、スズキ(株)様始め関係方面の皆様には厚く御礼申し上げます。三幸の社名に託した「顧客、社員、会社が共に栄え幸せになるためにある」という基本精神を貫き、真摯に、着実に歩んでまいりました。50年の実績も、この精神を貫いた結果です。そして、どんなに時代や環境が変わろうとも、顧客の「満足」と、会社の永続的な「繁栄」、社員の「幸福」を追求する生き方は今後も変わることはありません。今、自動車産業は環境問題、資源エネルギー問題などに対峙し大きな変革期にあります。こうした中で私たちに求められる使命は、自らが蓄積した技術力を発揮して、完成車の価値を支え続けることです。このことによって、顧客、社員、会社の未来も育まれると考えます。インドネシア工場、西丘新工場を含め金属加工の独自技術を活かして自動車産業の進化に貢献していきたいと思っております。今後ともご支援のほどお願い申し上げます。



1940年:日独伊三国同盟成立  
 1942年:ミッドウェー海戦・知覧陸軍飛行場完成  
 1945年:広島・長崎に原子爆弾投下 終戦  
 1946年:日本国憲法が公布される  
 1949年:湯川秀樹がノーベル賞を受賞



1945年 浜松まつりの広告大カーニバル

1960年:日米安全保障条約の改定  
 1961年:南極観測が始まる  
 1963年:原子力研究所で発電成功  
 1964年:東海道新幹線が開通する・東京オリンピックが開催される  
 1965年:ベトナム戦争勃発  
 1966年:ビートルズ来日  
 1968年:3億円事件発生・GNP世界2位・いざなぎ景気  
 1969年:東名高速道路全面開通・アポロ11号月面着陸



1964年 東京オリンピックの聖火歓迎

1980年:イラン・イラク戦争  
 1982年:東北・上越新幹線  
 1983年:大韓航空機事件 東京ディズニーランド  
 1985年:つくば科学万博 日航機墜落事故  
 1986年:チェルノブイリ原発  
 1987年:国鉄分割民営化  
 1988年:瀬戸大橋開通  
 1989年:昭和天皇没、皇位継承 消費税3%スタート

# History <歴史年表>

## 株式会社 三幸製作所

昭和5年浜松高塚の地で中島プリキ店として創業。  
 金物加工を主な生業として成長をしていきます。



### 1952 昭和27年

・スズキ㈱のオートバイ「パワーフリー」発売、ガソリンタンクの本体プレス部分を担当  
 昭和27年から、仕事内容がプリキからオートバイへ移行し始める  
 小型のプレス機数台を導入

### 1953 昭和28年

・オートバイの仕事が拡大された

### 1955 昭和30年

・合資会社三幸製作所 設立 / 会社規模は社員30名程の大きな会社に成長  
 ・スズキ㈱スライト開発、三幸も関わった初めの自動車

### 1958 昭和33年

・仕事は大変忙しく昼夜働き「作ればどんどん売れる」という状態だった。  
 ・当時1953年に発売されたスズキ㈱の「ダイヤモンドフリー号」は月産6,000台に達していた

### 1966 昭和41年

・1月 南工場6・7号棟建設  
 ・3月 南工場8号棟建設

### 1969 昭和44年

・9月 北工場第1溶接工場建設

### 1970 昭和45年

・資本金1050万円(増資)

### 1972 昭和47年

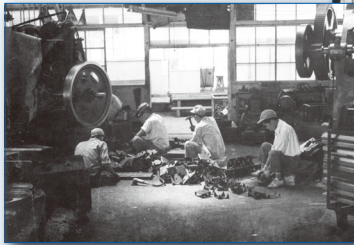
・北工場 第3溶接工場



## 1930

### 1930 昭和5年

・中島プリキ店創業  
 中島章平・中島豊太郎(章平の父)の2人で始まった。  
 中島プリキ店時代の商品は、木炭車の板金修理や、プリキバケツ、フロ釜のストープ、製粉所の機械、傘の留め金など様々、プリキ店としては比較的大きく、可美村一体の仕事をしていた。  
 創業当時は高塚駅前に工場があった。



## 1940

### 1944 昭和19年

・初代社長出兵。中島プリキ店は親戚に任せ、満州へ

### 1945 昭和20年

・初代社長、終戦により満州から戻る



## 1950

### 1959 昭和34年

・高塚駅前から現工場へ移転 / 社員数40名ほど  
 ・5月31日 最初の工場建設・南工場1号棟完成する  
 ボンチング(120tプレス)導入 / 他プレス機10台ほどを備えていた

### 1961 昭和36年

・正月 初代社長含むスズキ㈱下請けのグループでスズキオートバイ「コレダ号(1953年発売)」に乗って、ツーリングで豊川稲荷へ初詣に行く  
 ・11月 南工場2号棟建設

### 1963 昭和38年

・10月 南工場3号棟建設

### 1964 昭和39年

・株式会社に登記変更 / 資本金700万円  
 ・1月 南工場4号棟建設

### 1965 昭和40年

・スズキ㈱の「品質管理入門」コース講座を受講  
 ・9月 南工場5号棟建設



## 1960

## 1970

### 1974 昭和49年

・北工場大型プレス  
 ロボットライン工場建設

### 1976 昭和51年

・北工場大型プレス4連  
 ロボットライン工場建設  
 ・6月 北工場  
 プレス工場増設

### 1978 昭和53年

・資本金2100万円(増資)



1955年 日本初の国産軽自動車スライト

1930年:ロンドン軍縮会議  
 1931年:満州事変  
 1932年:五・一五事件  
 1933年:国際連盟脱退  
 1934年:フシントン軍縮条約破棄  
 1936年:二・二六事件  
 1937年:日中戦争・日独伊防共協定  
 1938年:アメリカ通商条約破棄通告  
 1939年:9月第二次世界大戦 開戦



1931年 浜松市にて全国産業博覧会開催

1950年:朝鮮戦争勃発  
 1951年:サンフランシスコ平和条約を締結 日米安全保障条約を結ぶ  
 1953年:テレビ放送開始・朝鮮戦争終結・奄美群島日本復帰  
 1955年:自由民主党結成・鈴木自動車㈱「スライト」発売  
 1956年:日ソ共同宣言・国連加盟決定・桜島大爆発  
 1957年:なべ底景気

1970年:大阪万国博覧会が原発認可・沖縄諸島の日中国交回復  
 1971年:県内車保有台数10万台  
 1972年:沖縄本土復帰  
 1973年:オイルショック  
 1974年:伊豆半島沖地震・七  
 1976年:浜岡原発運転開始  
 1977年:1ドル230円・日航  
 1978年:日中平和友好条約  
 1979年:東名日本坂トンネル



争始まる  
線開通  
ト  
ランド開園  
.  
死520人  
発事故  
、JR発足  
.  
太子明仁親王即位  
ト



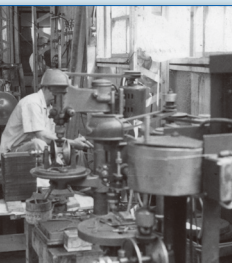
1970年 館山寺を訪れた皇太子一家

2001年:米国で同時多発テロ事件・松菱店  
破産・狂牛病発生  
2002年:ジュピロ磐田史上初リーグ制覇  
2003年:新型肺炎SARSが猛威を振るう  
2004年:浜名湖花博・アテネオリンピック開催・  
イオンモール浜松志都呂SC開業  
2005年:愛知万博  
2006年:トリノオリンピック・ライブドア事件  
2007年:浜松市 政令指定都市 移行  
2008年:リーマンショック・北京五輪  
2009年:クライスラー-GM政府傘下に



2004年 浜名湖花博開催

2020年:中国・武漢で新型肺炎発生  
2020年:新型肺炎でクルーズ船が横浜港停泊  
2020年:夏の甲子園中止=コロナ禍で戦後初  
2020年:民間初の有人宇宙船、打ち上げ成功  
2020年:はやぶさ2のカプセル回収  
2020年:バイデン米大統領就任  
2021年:松山がマスターズゴルフ制覇



1991 平成3年  
・7月 北工場 出荷場建設

1992 平成4年  
・3月 北工場 金型修理工場建設

1994 平成6年  
・12月 北工場 組立工場  
A(トラックヤード)建設  
・「ボス固定」スズキ(株)様と  
共同特許取得

1996 平成8年  
・4月 中島雄一入社

1997 平成9年  
・12月1日  
第二代社長 中島廣幸 就任

1998 平成10年  
・2月 北工場 大型プレス  
自動ライン工場建設

1999 平成11年  
・11月 北工場底建設

2006 平成18年  
・順送400tレベラー  
プレスライン導入

2007 平成19年  
・9月28日PT・MIYUKI・INDONESIA  
新工場完成

2008 平成20年  
・6月 順送600tレベラープレスライン導入  
・9月 北工場 外注出荷倉庫 建設

2009 平成21年  
・専務取締役 中島雄一 就任

2010 平成22年  
・4月 北工場 倉庫(ストレージ)建設  
・4月 カラワンミユキ取得

2011 平成23年  
・12月 ISO14001 環境 取得  
・PT・MIYUKI・INDONESIA  
8月30日 工場拡張完成  
12月 大型プレス機Bライン増設

2019 平成31年  
・1月 西丘工場 第3期 増築完成  
・2月1日 会長 中島廣幸 就任  
第三代社長 中島雄一 就任

2020 令和2年  
・12月1日  
相談役 中島廣幸 就任

2022 令和4年  
・5月 西丘工場第4期  
研究棟・金型棟新築完成  
(テクニカルセンター)

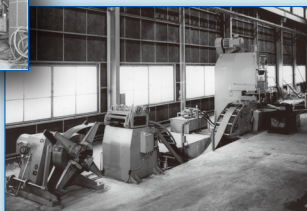


1980 1990 2000 2010 2020

昭和55年  
・PC導入  
ライン工場建設

1985 昭和60年  
・PC導入  
・500tプレス導入

1986 昭和61年  
・3月北工場 第2溶接工場建設



2000 平成12年  
・新事務所2階引越越し、業務開始  
・12月 塗装工場完成  
・12月 北工場 出荷場  
(一部組立場)建設

2001 平成13年  
・2月 北工場(出荷場)増設  
・4月 カチオン電着塗装設備導入・  
本格稼働  
・11月 PLANET MIYUKI 建設

2002 平成14年  
・3月14日「PLANET MIYUKI」  
共同住宅完成

2004 平成16年  
・6月 ISO9001

2005 平成17年  
・インドネシア海外進出  
検討開始

2012 平成23年  
・7月 経済産業省より「戦略的基盤  
技術高度化支援事業」の認定を受ける。  
・PT・MIYUKI・INDONESIA  
12月 ISO 9001品質取得  
・屋上災害避難用フェンス設置

2013 平成25年  
・12月1日  
(株)三幸製作所  
50周年スタート

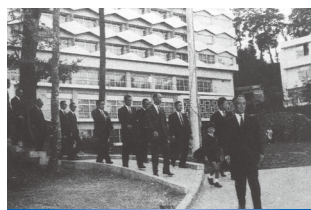
2015 平成27年  
・1月 西丘工場 第1期 新築完成  
・順送1200tプレスライン導入  
・3月 西丘工場開所式

2016 平成28年  
・6月 西丘工場 第2期 増築完成

2017 平成29年  
・9月 創業者 初代社長 中島章平 没  
(享年93歳)



開催される・浜岡  
が日本に復帰す  
.  
00万代突破



1970年 館山寺を訪れた皇太子一家

1990年:スズキ(株)売上高1兆円超  
1,011,428(百万)  
1991年:バブル崩壊  
1992年:バブル後五輪・  
学校週五日制スタート  
1993年:EU発足・Jリーグ開幕  
1994年:浜松アクティがオープン  
1995年:阪神淡路大震災・地下鉄サリン事件  
1997年:消費税 5%になる  
1998年:長野オリンピック開催  
1999年:欧州統一 通貨ユーロ誕生



2012年 東京スカイツリー開業

2010年:上海国際博覧会・日本航空 経営危機・  
宮崎県 家畜に口蹄疫流行  
2011年:東北地方大地震・津波発生 死者・行方  
不明者3万人・福島第一原発事故・  
女子サッカー なでしこジャパン初優勝  
2012年:衆議院選挙で自民党が大勝・  
東京スカイツリー開業・新東名県内開通  
2013年:参院選で自公圧勝、6年間続いた  
「ねじれ国会」が解消される

夕豪雨  
機ハイジャック  
開印  
内で火災事故



## History of MIYUKI

1930年(昭和5年)～1963年(昭和38年)

### 第1章

# 創業

Founding



原点にはブリキ職人の魂があった。  
戦争の試練を超えて新しい時代を迎え  
創業者のものづくりへの熱い想いが  
オートバイ部品メーカーへの道を拓いた。

It all began with tinsplate and a craftsman's spirit.

The ordeals of WWII ushered in a new era in Japan, and our founder's passion for craftsmanship found a new focus in the manufacture of motorcycle parts.



満州事変の前年、1930年(昭和5年)中島ブリキ店は創業した。

幾多の苦難を乗り越え終戦となり、再び高塚駅前で営業を開始する。

まさにスズキ(株)がオートバイ生産に乗り出そうとしていた時である。

それは、かつてない高度な金属加工技術をめざす新時代の幕開けでもあった。

この機をとらえ中島ブリキ店でも技術革新へのチャレンジが始まる。

パワーフリー号を皮切りに、ダイヤモンドフリー号、軽四輪スズライトなど

次々に開発されるSUZUKIブランドを支える高度な技術に果敢に挑む日々。

工場の拡充と新設備の導入を進め、高性能・高品質の部品供給で応えていく。

そして1955年(昭和30年)には合資会社三幸製作所を設立し

信頼あるスズキ(株)部品のサプライヤーとして確かな道を歩むこととなる。

### インタビューコラム①

## あの時は、 私



### 菅沼 政治

MASAJI SUGANUMA

1955年入社

## 二輪、そして四輪へ。 (株)三幸製作所の草創期を 汗と情熱と創意でひたすら挑む新技術。

(株)三幸製作所は私自身の青春であり、成長の軌跡であり、人生そのものと思います。1948年(昭和23年)父が亡くなり、すでに母も亡く13歳で中学1年生だった私は叔父に引き取られました。叔父にも4人の子供がいましたから、常に稼いで生活を支えなくてはという意識がありました。そんな私に声をかけてくれたのが、中島ブリキ店の創業者で中島章平の父・豊太郎でした。豊太郎はブリキ店で温室の暖房設備を造る傍ら、自分も温室を経営していました。豊太郎の下で働くようになってすぐに、スズキ(株)(鈴木自動織機)が開発を進めていたバイクの燃料タンクの試作依頼を受け、これを皮切りに、昭和27年発売となったパワーフリー号、そして続くダイヤモンドフリー号の部品の大量受注につながりました。そして、昼夜大変な忙しさの中仕事に打ち込んでいました。昭和29年になるとスズキ(株)は軽四輪の開発に着手し、私たちにも部品生産の打診がありました。しかし工場体制も人材もまだ四輪部品は荷が重過ぎると足踏み状態でした。当時私は、静大出身でスズキ(株)の新人エンジニアと懇意になり、試作車について聞いたり、「これからは四輪の時代」という将来へのアドバイスを受け、豊太郎が温室経営をやっていた高塚駅北の1000坪の土地に新工場を建てる話を取りまとめました。資金調達には苦労したものの、52坪しかなかった旧工場から設備もラインも刷新し、昭和33年からスズキ(株)初の軽四輪スズライトの部品生産が本格的に始まりました。当時生産していた四輪部品は、エンジンから後輪へ回転運動を伝えるプロペラシャフトのブラケット、ブレーキパネル、クリーナー、ドア板金などだったと思います。また、資材、営業、エンジニアなど優秀な人材も次第に集まり、三幸の基盤が固まっていきました。今ではなつかしい思い出ですが、毎日が新しい進歩の連続で、汗の中にも生きがいを実感したものです。

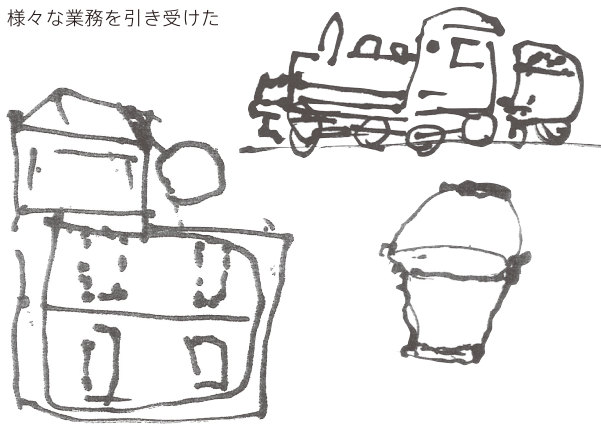




1961年(昭和36年)頃の南工場。左手が1号棟、正面が2号棟。1964年(昭和39年)にはトラックの位置に4号棟が完成。

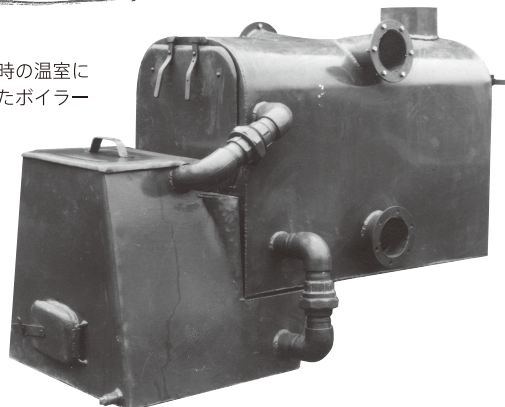
## 1930年(昭和5年)高塚駅前に誕生した。 中島ブリキ店がすべての始まりであった。

バケツ制作・温室ボイラー・軽便鉄道板金など  
ブリキ製品製作から板金補正まで、  
様々な業務を引き受けた



1930年(昭和5年)東海道線高塚駅前に中島豊太郎と、後の三幸初代社長・中島章平父子によって中島ブリキ店が創業された。浜松高等工業(現・静岡大学)の高柳健次郎博士の研究グループが、世界初のテレビジョン実験に成功した5年後のことである。地域の公共交通として活躍した木炭軽便鉄道車の板金修理から、マキ風呂の鉄枠と煙突、製粉機、温室ボイラー、ブリキバケツ、傘の留め金まで、さまざまな金物加工職人として腕を振るった。当時の可美村全域を対象に商売も順調に推移していた。しかし松菱百貨店が開店した1937年(昭和12年)には日中戦争、そして1941年(昭和16年)には太平洋戦争と、日本は戦争の時代へと急傾斜していく。そして章平も店を親戚に任せ満州へ出征となり、1945年(昭和20年)の終戦を迎えるまで、中国大陸での生活を余儀なくされた。

当時の温室に  
使われていたボイラー



風呂釜の湯沸かし  
煙突パイプなど  
板金で補修などを行った





## 1930 ▶ 1963

終戦を迎え金属加工の新領域へ挑戦。  
 オートバイ産業勃興で部品メーカーへ。



創業者・初代社長中島章平の入隊記念写真  
 1944年(昭和19年)

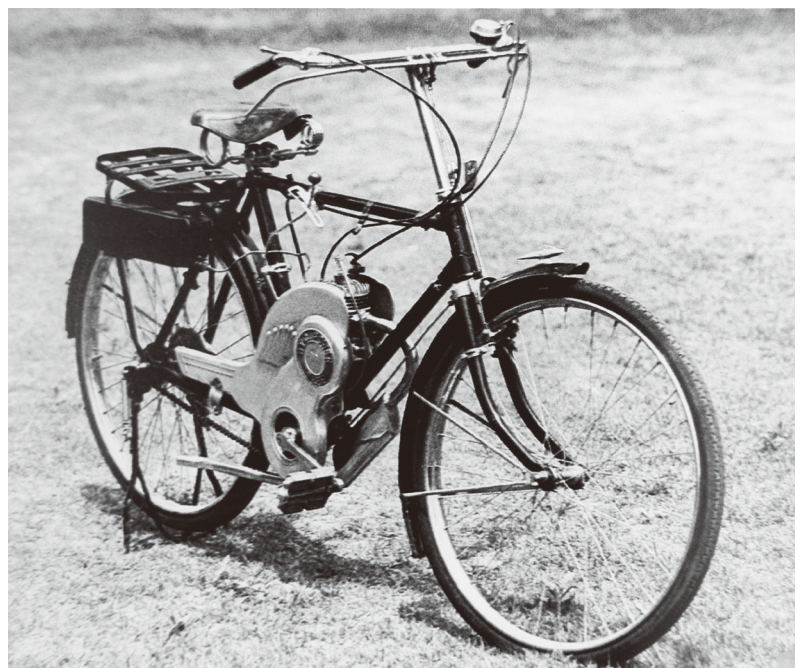


創業者・戦後再出発に邁進する  
 初代社長中島章平(中)と、飯田好雄(左)

章平は満州から引き上げると、すぐに中島ブリキ店を再開。浜松は大空襲で焼け野原となったが、早くも復興への槌音が聞こえはじめる。戦後復興の象徴のように、原付自転車はボンポンの名で瞬間に地元に普及。浜松の街にはボンポンを製造する工場が次々に登場する。そうした中で大手企業鈴木式織機(株)もオートバイ産業へ参入する。スズキ(株)は、1951年(昭和26年)、2サイクル36CCのバイクエンジンの開発に乗り出し、翌1952年(昭和27年)早くも「パワーフリー号」を完成させた。世界の自動車メーカー・スズキ(株)の第一歩である。すでにこの時、中島ブリキ店の金属加工技術は**ガンソリタンク部品**等、スズキ(株)新製品に確かな力となって息づいていたのだった。



オートバイ生産に乗り出した頃のスズキ(株)本社  
 スズキ(株)様より写真提供



スズキ(株)原付二輪第1号機「パワーフリー号」  
 スズキ(株)様より写真提供